

研修員's VOICE

Vol. 36

世界各国からJICA沖縄にやって来た
研修員を紹介しています。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

3 すべての人に
健康と福祉を



出典:外務省HP



保健省 全国公衆保健局 母子保健課勤務のネリセさん(左端)と
ガザ州保健局 母子保健部 州責任者のカーラさん(右端)
@アンゴラ共和国の病院視察にて

氏名: Ms. MATE Nelice Santos (ネリセさん)

Ms. NHASSENGO Carla Joaquina Filipe

国名: モザンビーク共和国 (カーラさん)

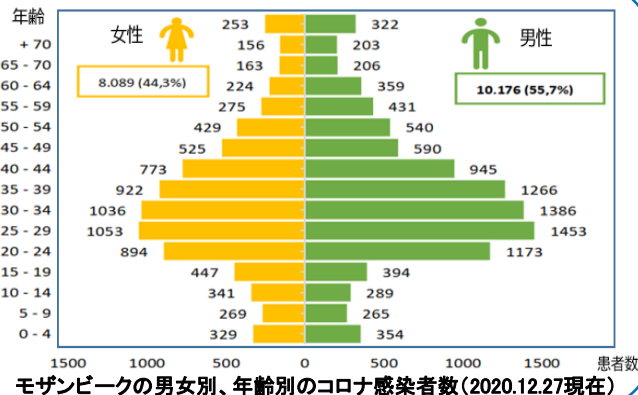
コース名: 公衆衛生活動による母子保健強化 (C)

研修期間: 2020年 11月 16日 ~ 2021年 1月 29日

モザンビークのコロナの状況

人口約3,036万人(2019年)、国土面積約80万km²(日本の約2倍)、アフリカ大陸南東部のインド洋に面する国です。

モザンビークの新型コロナ感染状況は2020年12月27日現在、累積感染者数18,265人、回復者数16,119人、死亡者数161人です。感染者数は首都マプトが最大ですが、他都市でも増えつつあり現在感染は全国に広がっています。幸い、新型コロナに感染した妊婦や授乳中の女性はまだ報告されていません。



モザンビークの男女別、年齢別のコロナ感染者数(2020.12.27現在)

遠隔(オンライン)による研修参加

新型コロナ感染拡大の影響により、来日研修は叶いませんでしたが、8週間の遠隔研修に参加することができました。研修は、各自で講義動画を見て課題を提出、1~2週間に1回ライブセッションが開かれ、講師と参加研修員(モザンビーク、ブラジル)でディスカッションを行います。

遠隔研修は、昼夜、週末問わず研修コンテンツにアクセスできるため、休職せずに研修に参加することが可能で、各自の都合の良い時間に資料を閲覧したり、講師によるサポートもあります。

一方で、一部動画の低音が聞きづらいことや、質問の回答が翌週になるなど、遠隔研修故の不便な点もありました。

これまでの5週間の研修では、日本や沖縄が第二次世界大戦後、不十分な医療スタッフと施設、極端に保健支援が不足した状況後の医療システムの再構築について多くを学びました。また、沖縄でどのように看護運営が機能したか、どのように母子保健の改善計画を進展させてきたかについても見ることができました。



ライブセッションの様子(日本-モザンビーク-ブラジルと接続)

今後の取り組みと来日研修への期待

研修で学んだ知識や技術、沖縄の成功経験を、自国の母子保健分野に取り入れ、問題の解決に繋げていきたいと思えます。まずは現在の問題に基づき計画を立て、モザンビーク保健省等が求めるレベルの解決策を模索していきます。ぜひ2021年度には来日し、研修動画で見た病院や保健施設を実際に見学したり、沖縄で意見交換できることを期待し、このコロナ禍が早く終息するよう祈ります。研修の機会を与えてくれたJICAと、我々への指導と忍耐に対しコース関係者に深く感謝します。



母子保健チームのスタッフ

持続可能な開発目標 (SDGs) とは、「誰一人取り残さない-No one will be left behind」を理念として、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するための重要な指針で、17のゴールが設定されています。JICAはSDGsの達成に向けて積極的に取り組み、17のゴールに貢献する研修を実施しています。